

追悼の辞

近畿大学法科大学院教授中島健仁先生は、2007年7月18日、急逝されました。享年52歳でした。

中島先生は灘高等学校、東京大学法学部をご卒業後、弁護士法人北浜パートナーズで弁護士としてご活躍されていました。近畿大学法科大学院の設立にあたり、実務家教員にふさわしい人を探していたところ、中島先生はきわめてご多忙であるにもかかわらず、法曹養成のためならばとご快諾くださいました。2004年からは、本法科大学院教授として「倒産処理法」、「国際倒産法」、「特別演習（企業活動におけるコンプライアンス）」などの科目をご担当されるとともに、リーガル・クリニック、エクスターンシップ、模擬裁判など実務基礎科目の充実にも大きく貢献してくださいました。授業のすばらしさはもちろん、明るく力強い中島先生のお人柄は、法科大学院生はもとより、我々教職員にとっても大きな心の支えでした。

2006年秋以来、中島先生は体調不良で入退院を繰り返されるようになりましたが、周囲に心配をかけまいとすご配慮と、強靱な精神力で、常に明るく振る舞われていたので、実際のご病状については誰も気がつきませんでした。年が明け、中島先生はご自身の病状について教職員・院生に説明されました。その衝撃に返す言葉を失うとともに、改めて先生の偉大さに感服しました。1年間の休職後には、ご本人の言葉どおり「スリムでバージョンアップした中島」先生の元気なお姿を拝見できるのを心待ちにしておりましたが、7月18日、中島先生は帰らぬ人となりました。突

然の訃報に、我々は大きな驚きと深い悲しみに包まれました。

中島先生は、倒産法の分野を中心に、実務、理論双方にわたりすばらしいご業績を残されました。その一端を院生に伝授していただくことも、また、法科大学院の発展を目指して共に歩んでいくことも、もはや叶わなくなったことは残念でなりません。

中島先生のご功績とご活躍を讃え、法科大学院一同の心からの敬愛と感謝の念を込めて、本論集を御霊前に捧げるとともに、謹んで先生のご冥福をお祈りして追悼の辞とさせていただきます。

法科大学院長

小 橋

馨